

説教要旨「主の恵みの年」

ルカによる福音書4章14～21節

イエス様はガリラヤにおいてその会堂をあちこち周り、教えを語られました。それは生まれ故郷生まれ故郷であるナザレにおいても同様に、いつも会堂でしているように、ナザレでも安息日に会堂に入って教えを語られたのです。

イエス様がそこで朗読した聖書の箇所は、イザヤ書第61章の始めの所です。この福音の中心となる言葉は、解放と自由です。捕らわれている人に解放を、圧迫されている人に自由を与えるのです。「目の見えない人に視力の回復を告げ」も、目が見えないという束縛からの解放であると言えます。主イエス・キリストは、私たちの解放と自由を実現して下さる方です。イエス様によって私たちは、私たちを捕え、束縛しているものから自由になるのです。このことこそ、主イエスの福音、イエス様によってもたらされる救いの中心です。私たちを捕え、束縛しているものとは何か、またイエス様はどのようにして私たちを解放し、自由にして下さるのか、そのことはこれからこの福音書を読み進めていく中で明らかになっていきます。

自由に生きることは決して簡単ではありません。わたしたちも、ともすればその自由を失い、私たちを虜にしようとしている様々な力や人間の思いの奴隷になってしまいます。自由に生きることほど難しいことはない、むしろ一定の道徳律でも与えてくれた方が楽だ、と感ずることさえあります。しかし、掟や戒律を守ることによって得られる救いは、本当の救いにはならないのです。人間が努力して何らかの道徳律を守っていけば救いにあずかれるというのなら、イエス様がお生まれになる必要はなかったのです。しかし私たちが罪の支配から本当に解放され、自由に生きるためには、神様の独り子が人間となり、そして私たちの罪を全て背負って十字架にかかって死んで下さることが必要だったのです。

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」とイエス様は言われました。イエス様がこの世に来られ、活動を開始なさったことによって、福音の約束が実現したのです。

(2018・5・13 説教者：稲垣真実)